

社会環境研究センター 戸川 卓哉

東日本大震災の被災地では、住宅移転や土地利用を含む計画の検討とその実施も進み、復旧段階から復興・創生段階に入りつつあります。今後は、これまでの成果を踏まえつつ、地域内での自律的な再生プロセスへ移行していくことが求められています。したがって、震災前の状態に戻すことを基準としつつ、それに加えて、新たな成長の可能性を考慮した計画立案が必要です。そのための一つの方向性として、福島県において進められている「イノベーションコースト構想」等の大型プロジェクトの実施効果を最大限に活用し、震災前から進んでいた地域の課題（人口、経済）が進展し状況が悪化する事態を回避し、地域資源を活用し高い生活の質を持続的に提供できる都市基盤の整備が必要と考えられます。本研究では、地域のエネルギー特性に応じた復興まちづくりの計画支援を目的としています。特に浜通り北部におけるLNG（Liquid Natural GAS：液化天然ガス）基地立地計画に着目し、エネルギー需給バランスの観点から、その立地効果を評価するためのコンピュータを活用した計算ツールを開発しています。それらを実地域に適用することで、拠点地区の空間デザインやそのエネルギーシステム設計がエネルギーコストや環境負荷の増減を通じて、中長期の生活・環境・経済へ与える影響を評価し、住民が地域の将来像を選択できる基盤を提供します。これにより、復興・再生に関するこれまでの取り組みを踏まえ、その効果を持続化させるために、地域のエネルギー産業集積を活用した持続的な復興・再生シナリオの設計を支援します。



福島県内の先導開発地区における発展型創造シナリオの提示